

ながわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 84

裂田溝11

山田・西中溝周辺

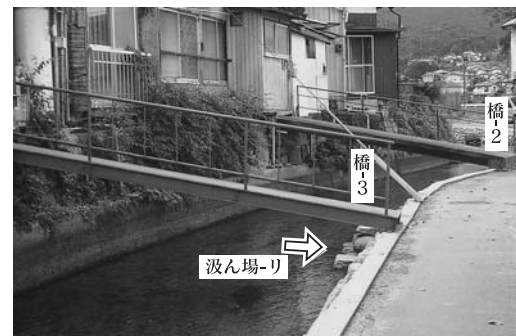
「橋―1」の下流に裂田溝の最初の井堰。西中溝堰があり、この間に3カ所の汲ん場（洗い場）があります。

「汲ん場」は、溝沿いに建つ家の共同の洗い場です。水辺の住民は畑から取ってきたばかりの大根や里芋などを洗ったり、冬支度に備えて障子を洗ったりしていました。

八月の初め、山田の夏祭りが行われます。子どもみこしは区内を練り歩き、最終地点の西中溝堰まで来ると、子どもたちは、みこしを道に置き、祭りハッピを脱ぐのもどかしく、いつせいに溝に飛び込みます。子どもたちは水と遊ぶ楽しさや、水の恐さをこの溝から学んでいます。大人になったとき、

通りがかりの人も足を止めて、取れたばかりの大根の出来ばえや夕餉に上がる野菜の料理法を話したりしてちょっとした井戸端会議の場所でした。近くに住む古老は、生活に密着したいろんな知恵を学べる、和やかな雰囲気を持つ水辺だった昔を懐かしんでおられます。

「汲ん場―へ」のすぐ西側に石の門柱と大きなエノキが立っている場所があります。かつて「庄屋敷」と言われた屋敷跡です。江戸時代の終わり頃まで屋敷の中庭にムシ口を敷いて、里人を集め、庄屋さんのお達しなどがあっていたそうです。



西中溝堰



汲ん場-チ

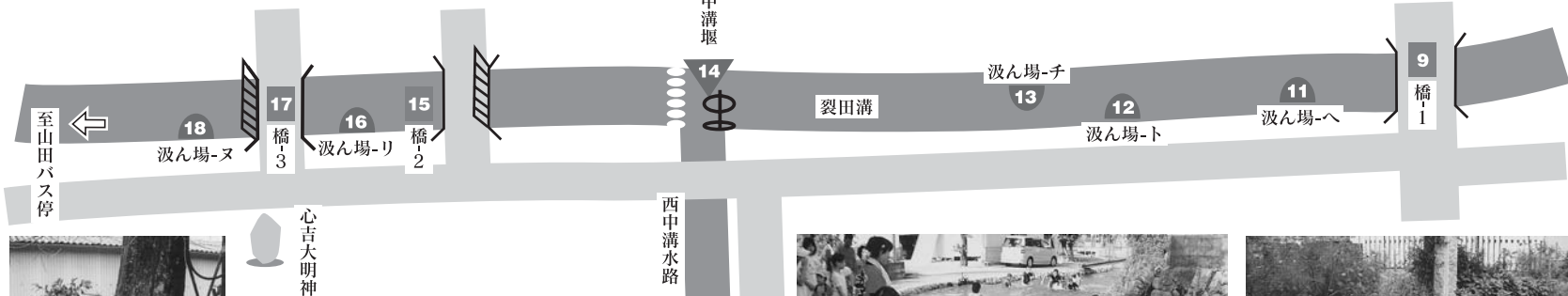
魚とりに夢中になり、帰宅が遅れて親に叱られたことなど、幼き日の思い出として、いつまでも心に残ることでしょう。

西中溝堰には、川幅を等分に区切る5本の石柱が立っています。

よく見ると石柱の両側（上流側）に切り込みがあり、この切り込みに板を渡して堰を作り、水を溜めます。堰の壁面には車のハンドルに似た「巻き上げ」という水門を開閉する機械があり、水門を開けると水はここから田んぼへと流れ込みます。

「汲ん場―リ」があります。「橋―3」は、付近の人たちの利便性を図るために、近くの店の方が掛けられました。「橋―3」の西側に「心吉大明神・森姫神社」昭和三年十月一日」と刻印された石像が建っています。近くの人はお地蔵様と言っています。次号は「汲ん場―ヌ」から紹介します。

夏の夜の
川面に照らす
月あかり
水満々と
裂田の溝
節子



心吉大明神



汲ん場-ト



汲ん場-へ

コースメモ

11. 汲ん場―へ

12. 汲ん場―ト

13. 汲ん場―チ

14. 取水口―①
(西中溝堰と巻き上げ)

15. 橋―2(赤色)

16. 汲ん場―リ

17. 橋―3(赤色)

次号へ
18. 汲ん場―ヌ



工事完了後の西中溝堰付近



水環境整備事業第一期工事で改修中の西中溝下流。護岸をコンクリートで固めない「ラップストーン工法」により、両岸の石垣は魚たちの絶好のすみかになります。